

ベニテングタケ *Amanita muscarina*

## テングタケ科テングタケ属

## 概要

地方名	アカハエトリ
傘の大きさ	6~15 cm 程度の中型から大型
形と色	傘 : 赤色で表面には多数のイボがあるが、脱落していることもある。 ひだ : 白色で密である。 柄 : 白色で上部にツバがある。その下はさざくれ状である。
発生時期	夏~秋
発生場所	マツなど針葉樹や白樺など広葉樹の地上に発生する。
その他	塩付けにして食する地域もあるが、毒きのこである。テングタケよりは毒性は低いと考えられている。
症状	食後 30 分ほどで下痢、嘔吐、腹痛の胃消化器系の症状が現れ、めまい、錯乱、運動失調、幻覚、興奮、抑うつ、痙攣など神経系の症状も現れる。まれに、死に至ることもある。
毒性成分	イボテン酸、ムッシモール、ムスカリーン、ムスカリジンなど
間違えやすい食用きのこ	タマゴタケ ( <i>Amanita hemibapha</i> ) は毒きのこが多いテングタケ属の中にあって珍しく食べられるきのこである。

(写真図説)  
ベニテングタケ



上左から傘の開く前、開き切った状態で、右の物はいぼが一部脱落している（青矢印）。柄は白色、ひだも白色。柄の上部にツバがある（赤矢印）。

傘は赤ではなくオレンジ色のものも存在する（下左）。いぼがなく、黄色のものも存在する。（下中）。幼菌（下右）



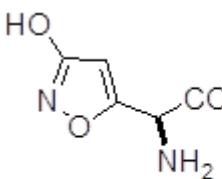
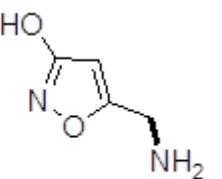
似ている食用きのこ

タマゴタケ（食用）は、傘にいぼを持たず、柄やひだの色は黄色をして（左・中）、卵を割ったような白いつぼがあることが特徴である。  
右は幼菌。いぼが取れたベニテングタケと間違える可能性がある。



## 詳細

## 1 特徴

(1) 毒性成分	(成分名)
	イボテン酸 (ibotenic acid), ムッシモール (muscimol), ムスカリーン (muscarine), ムスカリジン (muscaridin) など
	(構造式)
	  ibotenic acid      muscimol
(2) 食中毒の型	(説明)
	(毒性成分の含量)
(3) 中毒症状	(毒性発現機構)
	食後 30 分から 1 時間ほどで発汗, 腹痛, 嘔吐, 下痢, 錯乱, 運動失調などを示し, 数時間で回復する。まれに, 死に至る。
(4) 発症時間	30 分から 1 時間程度
(5) 発症事例*1	(症例 1)
	(症例 2)
	(その他) <u>参考, ムスカリーン中毒で死亡した事例</u> 2005 年にオーストラリアで 53 才の女性が <i>Rubinobolletus</i> 属きのこ (ダルマイグチなど) 2 つを摂取した。摂取後 1 時間で症状が現れ, 2 時間で頭痛, 胸および腹痛, 嘔吐および大量の発汗, ムスカリーン中毒特有の症状を示した。3 時間後には, 下痢, 低血圧, 徐脈, 瞳の収縮 (たまごの殻の目) などの症状が現れ, 4 時間後には意識障害が現れ, 5 時間後には死んでいた。

	だし, 光には反応), 精神錯乱の状態になった。収縮時血圧は 60 mmHg, アシドーシス (pH6.7) に, Glasgow coma score (意識障害の深度分類) は 5 点 (15 点中) になった。7 時間後にアドレナリン, ノルアドレナリンを 50 ug/min で, アトロピン 12 mg を投与。透析を開始した。この後, 1 時間後に心停止。きのこ摂取後 10 時間後に蘇生措置を終了。
(6) 中毒対策	

## 2 毒性成分の分析法

(1)	説明 (図解)
-----	------------

## 3 その他

諸外国での状況	
参考になる情報	

## 4 間違えやすい食用きのこ

1	一般名	タマゴタケ
	学名	<i>Amanita hemibapha</i>
	発生場所	
	発生時期	
	形態	傘にいぼを持たず, 柄やひだの色は黄色をして, 卵を割ったような白いつぼがある。

## 引用・参考文献

- 1) Pauli JL, Foot CL.: Fatal muscarinic syndrome after eating wild mushrooms. *Med J Aust.* 21, 182(6), 294-5. (2005)